

5/
1

南宇和高校相撲部出身 福原丈一郎^{じょういちろう}さんがひと回り大きくなって凱旋 東洋大学相撲部が今年も愛南町で強化合宿を実施



愛媛
CATV
動画



▲後輩力士の稽古に胸を貸す福原丈一郎さん

昨年に引き続き、東洋大学相撲部の学生たちが町内で強化合宿を実施しました。

5月1日(金)は、一般社団法人Umidasが企画したぎょしょく体験が行われ、部員たちはカツオの一本釣りの模擬体験をしたほか、刺身やタタキを作り、地域の食文化に触れました。部員からは「愛南のパワーを感じた」などの感想が聞かれ、合宿の疲れを吹き飛ばす時間となりました。

午後から地元の相撲クラブに所属する小中高生との合同稽古も行われ、大学生の胸を借りた子どもたちは目を輝かせながら力強くぶつかり、貴重な経験を積んでいました。部員には南宇和高校出身の福原丈一郎^{じょういちろう}選手も在籍しており、地域とのつながりを深める機会となりました。

5/
26

関係機関と顔の見える関係を構築 県・市町災害対策本部合同運営訓練を実施



愛媛
CATV
動画



▲次々と付与される状況への対応に当たる職員

役場本庁で県・市町災害対策本部合同運営訓練が行われました。今回は実践的な連携体制の強化を目的に、警察や自衛隊、海上保安部、愛南土木事務所、大洲河川国道事務所、愛南町社会福祉協議会も参加しました。訓練は「大雨により土砂災害が発生した」との想定で実施。役場職員は各対策部に分かれ、刻々と変化する状況に対応しながら、連携手順を確認しました。

これまでの行政主体の訓練から一歩進み、関係機関との緊密な連携基盤を整えた今回。今後は現場での実地訓練やボランティア受け入れ態勢の整備など、さらなる課題解決へ向けて組織の機能強化を図ります。

5/
28

命と食の大切さを五感で学ぶ 一本松小学校1年生が池田牧場を見学



愛媛
CATV
動画



▲池田一成^{かずなり}さんの話を真剣に聞き、畜産牛が出荷されるまでの過程を一生懸命学ぶ児童たち

一本松小学校の1年生が池田牧場を訪問し、命と食の大切さを学ぶ「命の授業」が行われました。児童らは池田一成^{かずなり}さんに案内され、母牛へのエサやりや仔牛との触れ合いを体験。出荷時の牛の気持ちを想像するため、家畜運搬トラックの荷台に乗る体験や写生にも挑戦しました。見学後は、食肉加工センターを舞台にした紙芝居を通して命への感謝を学び、同牧場産のブランド牛『伊予牛「絹の味」』を試食。命の恵みを笑顔で味わいました。

毎年受け入れを続ける池田さんは「牛との触れ合いや食事を通じ、命や食の大切さを感じてほしい。そして思いやりのある優しい大人に成長してほしい」と笑顔で話しました。

前田充さんと中尾ワキ子さんが高齢者叙勲 瑞宝双光章（教育功労）を受賞

教育振興における功績が認められ令和8年5月1日付けで前田充さん（城辺甲）、同じく6月1日付けで中尾ワキ子さん（御荘平城）が瑞宝双光章を受章しました。

昭和34年に内海村立家串小学校へ着任して以来、深浦や一本松など赴任した各学校の教育目標に沿って学校教育の充実向上に尽力した前田さん。平成5年から中玉小学校長、平成8年からは東海小学校長として、少人数の特性と地域の特色を生かした学校運営に励みました。

校長に就任した平成5年は、女性管理職の草分け的な時代。当時を振り返り、「子どもを一生懸命育ててくれる先生なら男も女も関係ない」と保護者からかけられたの言葉を、今も大切に思い出すという前田さん。「PTAや老人クラブ、地域の方々など、周囲から深く支えられた40年間の教職生活でした」と感謝の想いを語りました。

退職した今でも、当時の教え子に会うと思い出話に花が咲くと話す前田さん。現在は、趣味の短歌やコーラス、手芸教室などを通じて友人とかけがえのない時間を過ごしています。



中尾さんは昭和34年に津島町立下灘中学校に着任し、小中学校の教諭として児童生徒の健全育成に努め、平成5年から樽見・満倉・長月小学校の校長を歴任し、創意工夫を凝らした学校運営に取り組みしました。

40年間の教員生活を振り返り、「生徒が心身ともに素晴らしく成長する姿を見守ることは大きな喜びでした。初めての卒業生は82歳。今も彼らの集まりに参加して、これまでの努力や成功を語り合う姿に感動をもらっています」と語ります。

退職後は後半勤めた小学校児童の純真な目、素直な言動を思い返しなが、地域の登校見守り活動を十数年続けており、「子どもが少なくなる寂しさはありますが、今年入学した4人の1年生も上級生に守られて元気に通学しています。子どもたちの歩む未来が平和であってほしい」と穏やかな笑顔で話しました。



第7回愛南町優良工事表彰

愛南町優良工事表彰制度は、建設企業の意欲の向上、技術者の育成、公共工事の品質の確保に資することを目的とし、平成30年に創設しています。

6月17日(水)に役場本庁で表彰式が行われ、受賞者のお二人に中村維伯町長が表彰状を授与しました。

■有限会社松田建設（代表取締役 松田一生）
R6国交安第2号 町道梶郷駄場線道路改良工事

■株式会社愛亀（代表取締役 西山周）
R7国交安第1号 町道櫛月竹倉線道路改良工事(その1)



▲左から 大森孝宗常務執行役員、中村維伯町長
松田一生代表取締役



愛媛
CATV
動画

～ソフトテニスの最強集団～

篠山ジュニアソフトテニスクラブが今年も大活躍の予感

5月に松山市で開催された令和8年度愛媛県小学生ソフトテニス春季選手権において入賞した篠山ジュニアソフトテニスクラブの3人が、6月13日(土)・14日(日)の2日間、丸亀市で開催された第33回四国小学生ソフトテニス選手権大会に出場しました。

今回、篠山ジュニアから出場したのは、東予ジュニアの余吾さんとペアを組む岡崎結愛さん(ベスト8)と、鎌田依都さん・廣瀬紬乃さんのペア(予選リーグ敗退)。惜しくも上位入賞とはなりませんでした。四国という大舞台で得た感覚と学びに、確かな手応えを感じている様子でした。廣瀬さんは「今まで勝てなかった相手に勝てたのは大きな自信になった。次はもっと狙うコースを意識して、上位を狙っていきたい」と力強く語り、ペアの鎌田さんも「学年別大会で全国大会に行けるよう、どんなボールでも打てる選手を目指したい」と、次を見据えた抱負を述べました。



▲左から 鎌田依都さん、岡崎結愛さん、廣瀬紬乃さん

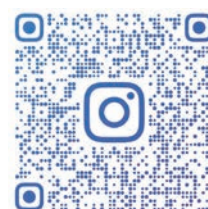
また、団体戦が行われた第20回四国小学生ソフトテニス連盟杯では、岡崎さんが所属する愛媛県選抜Aが見事優勝(岡崎・余吾ペア全勝)。「配球を意識してプレーし、1ポイントも無駄にしない気持ちでチームの勝利に貢献できたと思う」と、団体優勝の喜びを語りました。

篠山ジュニアソフトテニスクラブで
一緒にテニスをしませんか？

見学や体験も大歓迎！

詳しくは、毛利洋一^{よういち}監督

電話：090-4788-6954まで！



地域おこし協力隊 活動日記

「新たな地域おこし協力隊が着任」

6月2日(火)、新たな地域おこし協力隊として安藤^{まさと}正人さん(山梨県出身)が着任しました。

安藤^{まさと}正人さん

はじめまして。6月から愛南町の地域おこし協力隊に着任しました安藤正人です。現在は南宇和高校の南光叶夢センターで主に生徒の学習サポートを行っています。

出身は山梨県ですが、こちらに来る前は新潟県の豪雪地方におりましたので、愛南町は暖かく、とても過ごしやすいです。町外から来た私にも地元の方々が温かく迎えてくださり、海や山などのたくさんの自然、温泉施設、なにより海の幸と楽しみが多過ぎて毎日がとても楽しいです。

愛南町マスターの方々がたくさんいると思いますので、ぜひいろいろな過ごし方やおすすめスポット等教えていただけると嬉しいです。愛南町を全力で楽しみつづ、町のため、なにより生徒たちのために頑張っていきますので、これからよろしくお願いします！



▲左から 中村維伯町長、安藤正人さん

南光ゼミが始まります



愛媛
CATV
動画

愛南の魅力を学び、体験できる「南光ゼミ」が始まります。希望する南宇和高校生を対象に、地域の方を講師として、放課後・休日に活動を行います。

今年度は、「スキューバダイビング」、「フィッシング」、「自然生物探究」、「歴史探究」、「教育」、「動画」、「古民家DIY」、「林業」の8つのゼミがあり、年に5から6回程度、座学やフィールドワークを行います。

6月18日(木)の説明会には約30人の生徒が集まりました。7月以降、各ゼミの活動がスタートしていきます！



～町が誇る河内晩柑よ、世界へ羽ばたけ～ この農園株式会社がグローバルギャップ認証を取得



愛媛
CATV
動画

世界基準の農業生産工程管理を証明する「グローバルギャップ (GGAP)」^{ひとし}。町内では南宇和高校に次ぐ二例目として、この農園株式会社(代表・河野仁氏)が3月24日に認証を取得しました。

同社の栽培面積は11ヘクタール余り。このうち河内晩柑が8ヘクタールを占め、残る3ヘクタールで甘夏などさまざまな品種を栽培しています。「昨今の物価高の影響で苦しい経営が続いている中、町が誇る河内晩柑を世界にPRし、国内における市場単価の底上げにつなげていきたいと思ったのが認証取得を考えたまっかけ」と話す河野さん。



認証の取得にあたり、従業員全員で各工程・作業ごとにリスクを洗い出す「リスクアセスメント」を実施し、園地・倉庫の安全性を徹底的に見直しました。「今の状態では安全面が足りないのでもう少し、というのを全員で一からやるのが大変だった」と振り返ります。倉庫では温度管理を日々記録し、小動物の侵入がないかも点検や対策を施しました。選果機の近くには危険行動の禁止や事故発生時の対応を掲示し、救急箱や消火器の設置場所も明確にするなど、働く人の安全・安心を第一に労働環境の整備を進めました。

栽培面では、「EUの農薬基準は日本よりもかなり厳しく、国内と同じ農薬散布では通用しません。資料をもとにEU基準に対応できる農薬を優先的に選び、少しずつ試しながら園地の状態を確認し、失敗をしないよう一步一步進めてきた」と、農薬基準の違いが大きな壁になったといいます。世界基準への移行には、こうした地道な積み重ねがあり、問題発生時に生産履歴をたどれる「トレーサビリティ」の確保も、認証取得の重要な柱のひとつとなりました。

「認証を取得し海外に輸出することで、河内晩柑を世界にPRして市場単価の底上げにつなげ、この農園も前を向いて進んでいきたい」。河野さんは地域農業の将来を見据えて力強く展望を話しました。

倉庫内には安全な作業を従業員に呼びかける掲示を設置しているほか、農薬の保管および廃棄の徹底管理に努めている

